

# 平城京左京一条三坊十二・十三坪

—市立一条高等学校 講堂建設に伴う調査—

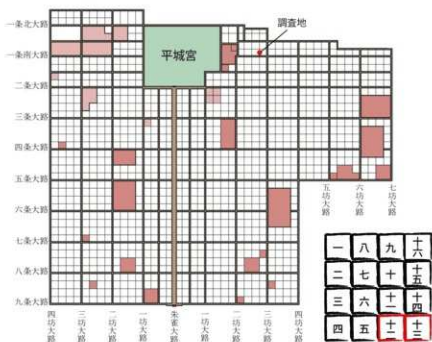


2019

奈良市教育委員会

北発掘区（北東から）

平城京左京一条三坊十二・十三坪の発掘調査



建物3 柱根遺存状況

図1 平城京条坊復元図と今回の調査地



図2 十一・十二・十三・十四坪における過去の調査事例と今回の発掘区的位置 (S=1/2000)

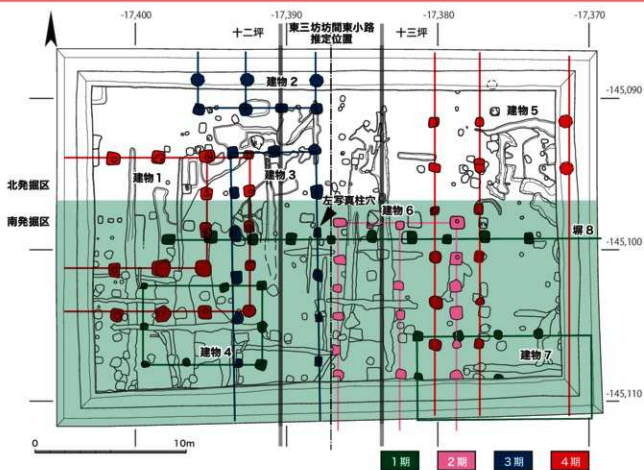


図3 発掘区平面図 (S = 1/250)



## 長屋王邸に匹敵する大規模宅地を発見！

### 平城京左京一条三坊で、十一・十二・十三・十四坪の4町を 一体で利用した宅地を確認

#### 調査成果

今回の発掘調査は、平城京跡左京一条三坊の十二・十三坪で実施しました。

発掘区中央部には、十二坪と十三坪を分ける東三坊坊間東小路が推定されていましたが、今回の調査では確認できませんでした。そして路面が推定された場所には掘立柱建物が3棟（建物2・3・6）と、掘立柱塀1条（塀8）があり、4時期以上の建物変遷を確認できます。掘立柱塀8は、東西方向に24m以上あり、推定される東三坊坊間東小路に直交しています。

以上のことから、調査地内では平城京造営時から条坊が施工されておらず、十二坪と十三坪が一体で利用され、掘立柱建物や塀が展開していたと考えられます。

奈良市教育委員会では、一条高校内では過去に6回の発掘調査を実施しています。平成元年度の調査（HJ第185次調査）では、推定される一条条間南小路上に東西7間（21m）以上、南北4間（12m）以上の大規模な北廂付建物が検出されています。このことから、十三・十四坪についても一体で利用されていたことが推定されています。また昭和54度の調査（HJ第3次調査）でも東三坊坊間路は確認されませんでした。

以上のことから、奈良時代には左京一条三坊十一・十二・十三・十四坪は4町規模の大規模宅地として利用されていたと推定できます。

奈良時代の宅地は、位によって大きさ（面積）が異なっており、高級貴族ほど平城宮に近い場所で広大な土地を与えられていることが発掘調査などでわかってきています。平城京内の発掘調査で見つかった4町以上の邸宅として、平城京左京二条二坊の長屋王邸（正二位）が挙げられます。他にも、調査地の西側に藤原不比等宅（のちの法華寺）、南側に石上宅嗣宅（芸亭）推定地、南東側には居住者不明の4町宅地（左京二条四坊十坪一・二・七・八坪）があり、調査地一帯に大規模な邸宅が配置されていたことがうかがえます。

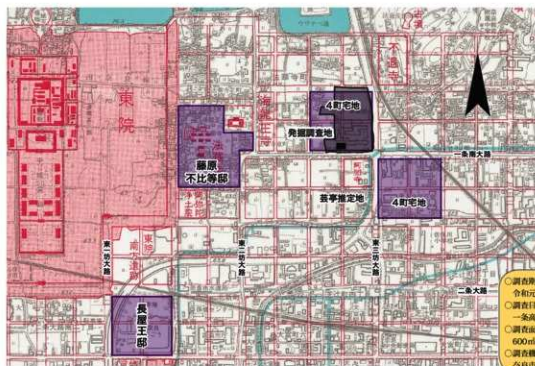


図4 調査地周辺の大規模宅地 (S=1/15000)